

ネット犯罪 狙われるシニア

2016年9月28日

By ミケパパ

先日来、PC デポをめぐる騒動がテレビ・新聞でも報道され、当倶楽部でもパソコンクラブ9月例会や政治経済グループの会員への通知で紹介されましたので、ご存知の方も多と思います。

簡単に経緯を振り返りますと、

- ① 昨年（2015年）、当時80歳の男性がPCデポ幕張インター店を訪問し、その際店側の勧めに応じて「複数の端末のサポートをします」という月額5,133円の契約をした。
- ② 息子が契約に気が付き、「独居老人には不要では？」と店を訪問して契約を解除してもらった。その際店には「父は認知症なので今後契約しないでほしい」と申し入れた。（この点、店は「記録がない」と言っている）
- ③ しかし同年12月、男性はPCデポを再訪し、パソコンの修理を申し入れた。その際店の勧めに応じて月額14,215円の保守契約を結んだ。
- ④ 男性は体調を崩し、認知症がひどくなったので施設に入院することになった。男性の息子は、父が再度高額な契約をしたことに気が付き、PCデポを再訪して契約の解除を申し入れたところ、20万円の解約料を提示された。息子は抗議し、結局10万円の解約料を渋々支払った。
- ⑤ この件につき、息子がツイッターで公表したため、「大炎上」し、NHKや日経新聞その他にも取り上げられる大騒ぎになった。

ということのようです。

「独居老人に10台の端末保守契約」だけでも非常識です。

この件につき筆者が、パソコンクラブアドバイザーから情報をいただいた翌日、日経新聞にこの件につき記事があり、そこには

- 1) PCデポは、過去5年間売り上げは500億円前後でほぼ同じだが、利益はなんと10倍になっている（つまり、利益率も10倍）
- 2) 本来はパソコン類の修理の会社だが、社長の号令により「シニア向けサービスで利益を出す」というビジネスモデルが変わった。それが、「シニア向けに不要な契約を結ばせてももうけを出せ」という末端の対応になって表れたのか？



といった記事がありました。ということは、「確信犯」だったということでしょうか。

しかし、PCデポの件は、氷山の一角といえます。

私も含め、シニア（高齢者）は

1. IT知識に乏しい → 相手の言うことを信じてしまう
2. 金の余裕はある → 「このくらい」と思ってしまう
3. 他人の善意を信じやすい → 「脇が甘い」とも言える

それ故、ずるがしこい詐欺師たちの格好の獲物になりえます。しかも日本では、人口の実に4分の1がすでに高齢者です。

詐欺師の中には、今回のように「東証1部上場」という立派な会社であっても、会社を上げてシニアをだまそうというものまであることを肝に銘じておきましょう。

ネットを使った犯罪としましては、本件のような「詐欺まがいの契約」以外にも

1. ウイルスを使って個人情報盗み取り、銀行口座から預金を引き出す
2. 誤ってクリックしたことで勝手に「契約した」ことにし、執拗に解約金を請求する（ワンクリック詐欺）
3. パソコンをまったく動かなくしてしまい、「元に戻してほしいければ」と金を要求する（ランサム＝身代金＝ウェア）
4. ネットで注文したものとは違うものが届く
5. 契約したはずのない契約の請求が来る

といった個人を標的にしたのものから、

6. あなたのパソコンを踏み台にして、標的とする企業や政府の組織にウイルスを潜り込ませ、極秘情報を抜き取る（または、サイトを書き換える）

といった国家規模の深刻なものまであります。最近も、ロシアのハッカー集団が、米国民民主党のサイトに侵入し、米国大統領候補であるヒラリー・クリントン氏の選挙運動に関する情報を抜き取ろうとしたと報道されました。「プーチン大統領は素晴らしい政治家だ」と公言するトランプ氏の応援でしょうか？（トランプ氏は、9月27日の第1回公開討論で「嘘だ」と決めつけていましたが）

今後、個人を対象に、「セキュリティ」の項目で、「騙されない方法」について、できる範囲で考えていきたいと思います。

以上